

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 八尾 史

経・律・論の三蔵という範疇におさめられる、現存するインド仏教の教典群は、異なる部派に属する、部分的に残存した典籍の集成であるため、これら教典の歴史的編纂過程を解明するには、膨大な教典群全体に対して精緻な文献学的考察を施すことが必要となる。しかるに従来の研究は、限られた著名な経と論とに繰り返し関心を向ける一方で、律蔵に属する多くの教典の考察を等閑に付してきた。その結果、学界に蓄積された知識には偏りが生じ、教典全体の編纂過程について、いまだ解明の準備が十分には整えられていない。この現状を打開すべく、八尾史氏は、五、六世紀のインドで勢力を有した根本説一切有部（以下、根本有部）所有の律蔵の解明を志し、その第一段階として、チベット訳『根本説一切有部律・薬事』（以下、薬事）を和訳、その全容を明かすという、初の快挙を成し遂げた。

本論文は薬事に「引用」された經典の精緻な調査にもとづいて薬事の構造を明かす第Ⅰ部と、その考察の基礎となる訳注研究の第Ⅱ部とから成る。未踏査の律蔵の教典を解明する場合、第一に律蔵のなかから適切な研究対象を選び出し、第二にその対象に内在する諸要素を分析、抽出し、最後にそれら諸要素と外部の教典との関係を明かす、という手順を踏むことが必要となる。第Ⅰ部はこの過程を理想的なかたちで実現している。薬事には経蔵に共通する膨大な分量の記述が存在する。これに加えて近年、根本有部の経蔵に属すると目される教典のサンスクリット写本が次々に発見され、研究が急速に進展しつつある。薬事の解明は根本有部の教典編纂過程の解明に、現在考える最も有効な研究対象である。八尾氏は、匿名のまま薬事に埋もれた経蔵の記述をくまなく調査、抽出し、その「引用」の様相が通常のテキスト引用の概念とはおよそ異なる事実を指摘、五類型に分類しつつ、それら教典の薬事に占める位置と編纂事情とを照らし出した。この結果を薬事外部の文献にあたうかぎり広範かつ綿密に照合し、「律蔵」薬事をもとに、消失した「経蔵」の30を超える教典を獲得、それらを現存する教典群全体のなかに位置づけることに成功した。

チベット語訳にもとづき、対応する漢訳、サンスクリット語写本を字句単位で照合しながら関連記述を教典群から回収、先行研究をさまざまに修正しつつ果された600頁におよぶ訳注研究の第Ⅱ部は、現在、最新にして最高の成果である。それは課程博士論文の水準を遙かに超えた内実を備え、今後、経、律、双方の研究分野において、末永く参照されつづけるにちがいない。本審査委員会は、格別の評価をもって、本論文に対し、博士学位（甲）を授与するに価するものと判断する。